

井上 俊 教授
略歴 著作目録

井上 俊 教授

略 歴

- 1938 年 9 月 8 日 宮城県栗原郡岩ガ崎町にて出生
- 1951 年 3 月 東北大学附属小学校卒業
- 1954 年 3 月 東北大学附属中学校卒業
- 1957 年 3 月 宮城県仙台第二高等学校卒業
- 1958 年 4 月 京都大学文学部入学
- 1963 年 3 月 京都大学文学部哲学科社会学専攻卒業
- 1963 年 4 月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程入学
- 1965 年 3 月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了
- 1965 年 4 月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程進学
- 1967 年 3 月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程中退
- 1967 年 4 月 京都大学文学部助手（～1970 年 3 月）
- 1970 年 4 月 神戸商科大学商経学部専任講師（～1972 年 9 月）
- 1972 年 10 月 大阪大学教養部助教授（～1980 年 10 月）
- 1977 年 4 月 イリノイ大学アジア研究センター客員準教授（～1979 年 3 月）
- 1977 年 5 月 第 18 回城戸浩太郎賞受賞
- 1980 年 11 月 大阪大学教養部教授（～1984 年 3 月）
- 1984 年 4 月 大阪大学人間科学部教授（～1996 年 3 月）
- 1987 年 4 月 放送大学客員教授（～1997 年 9 月）
- 1988 年 5 月 大阪大学評議員（～1990 年 4 月）
- 1996 年 4 月 大阪大学名誉教授
- 1996 年 4 月 京都大学大学院文学研究科教授（～2002 年 3 月）
- 2002 年 4 月 甲南女子大学人間科学部教授（予定）

<学会活動>

- 1964 年 5 月 関西社会学会会員（～現在）
- 1966 年 4 月 日本社会学会会員（～現在）
- 1976 年 9 月 現代風俗研究会理事（～現在）

1982 年 11 月	日本社会学会専門委員（～1985 年 11 月）
1983 年 5 月	関西社会学会委員〔研究活動委員〕（～1986 年 5 月）
1983 年 5 月	情報通信学会会員（～現在）
1985 年 11 月	日本社会学会研究活動委員（～1988 年 11 月）
1988 年 11 月	日本社会学会理事〔研究活動委員〕（～1991 年 11 月）
1989 年 5 月	関西社会学会委員〔研究活動委員〕（～1992 年 5 月）
1991 年 3 月	日本スポーツ社会学会会長（～1995 年 3 月）
1992 年 11 月	情報通信学会関西支部運営委員（～現在）
1994 年 11 月	日本社会学会理事〔庶務理事〕（～1997 年 11 月）
1995 年 3 月	日本広報学会理事〔編集委員〕（～2001 年 3 月）
1995 年 5 月	関西社会学会委員〔常任委員〕（～1998 年 5 月）
1997 年 3 月	日本スポーツ社会学会会長（～2001 年 3 月）
2000 年 11 月	日本社会学会理事〔学会賞委員〕（～現在）
2001 年 5 月	関西社会学会会長（～現在）

その他：日本マス・コミュニケーション学会、経済社会学会、日本犯罪社会学会、
社会・経済システム学会、精神医学史学会など。

井上 俊 教授

著 作 目 録

I 著書

- 『死にがいの喪失』筑摩書房，1973.4／新装版，1976.8
『遊びの社会学』世界思想社，1977.4／新装版，1999.5
『遊びと文化——風俗社会学ノート』アカデミア出版会，1981.6
『悪夢の選択——文明の社会学』筑摩書房，1992.10
『スポーツと芸術の社会学』世界思想社，2000.11

II 共著書

- 『テレビ番組論——見る体験の社会心理史』（共著：仲村祥一・津金澤聰廣・内田明宏・井上宏），読売テレビ放送，1972.6
『動詞人間学』（共著：作田啓一・多田道太郎・橋本峰雄・竹内成明），講談社現代新書，1975.9
『現代社会』（高等学校教科書）（監修：河野健二，共著：河合秀和・高取正男・高柳暁・森口兼二ほか），教育出版，1983.1／改訂版，1988.1，1992.1
『社会学入門』（共著：大村英昭），放送大学教育振興会，1988.3
『改訂版・社会学入門』（共著：大村英昭），放送大学教育振興会，1993.3
『倫理』（高等学校教科書）（監修：山本信，共著：井上忠司・壽福眞美・塚崎智・寺門日出男・鷺田清一ほか），教育出版，1995.1／改訂版，1998.1

III 編著書

- 『権田保之助著作集』全4巻（共編：仲村祥一・津金澤聰廣・田村紀雄），文和書房，1974.12-1975.6
『うその社会心理』（共編：仲村祥一），有斐閣，1982.6
『石山幸基——未完の肖像』石山陽子私家版，1982.10
『地域文化の社会学』世界思想社，1984.2
『ザ・カルチュアバンク』（共編：相良亨・飯田経夫・森毅・木村重信ほか），PHP 研究所，1984.3／分冊版，1988.7
『命題コレクション 社会学』（共編：作田啓一），筑摩書房，1986.6
『風俗の社会学』世界思想社，1987.1
『人間科学への招待』（共編：中島義明・友田泰正），有斐閣，1992.5
『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社，1993.3
『岩波講座・現代社会学』全26巻，別巻1（共編：上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉），

岩波書店, 1995.11-1997.6

『リーディングス日本の社会学1 社会学理論』(共編:塩原勉・厚東洋輔), 東京大学出版会, 1997.2

『新版・現代文化を学ぶ人のために』世界思想社, 1998.11

『スポーツ文化を学ぶ人のために』(共編:亀山佳明)世界思想社, 1999.10

IV 論文・評論

「大衆文化——映画の社会学」仲村祥一編『現代社会学ノート』汐文社, 1965.6

「恋愛結婚」の誕生』『ソシオロジ』12-4, 社会学研究会, 1966.6

「大衆社会——その社会構造と精神構造」作田啓一・日高六郎編『社会学のすすめ』筑摩書房, 1968.6

「個人・集団・全体社会」(共著:作田啓一), 作田啓一・日高六郎編『社会学のすすめ』筑摩書房, 1968.6

「マス・コミュニケーションにおける近畿圏——テレビ視聴率の東西比較」(共著:池田義祐・作田啓一・丸山定巳), 京大近畿圏総合研究会編『近畿圏——その人文・社会科学的研究』鹿島出版会, 1969.7

「愛と性と秩序」『朝日ジャーナル』11-52, 朝日新聞社, 1969.12

「死にがいの喪失」『思想の科学』105, 思想の科学社, 1970.8

「文化社会学的遊戯論の展開」『神戸商大人文論集』6-1.2, 神戸商科大学, 1970.11

「精神的失業の時代」(共著:磯部卓三), 『別冊・経済評論』4, 日本評論社, 1971.2

「あそび」としてのニヒリズム』『展望』148, 筑摩書房, 1971.4

「遊びの思想」『別冊・経済評論』7, 日本評論社, 1971.11

「青年の文化と生活意識」『社会学評論』22-2, 日本社会学会, 1971.12

「怠けと自由——ポール・ラファルグ『怠ける権利』をめぐる」『展望』166, 筑摩書房, 1972.10

「ゲーム論」仲村祥一編『現代娯楽の構造』文和書房, 1973.6

Culture de la jeunesse dans le Japon d'aujourd'hui: Le "jeu" en tant que mode de vie, *DIOGENE*, 84, Gallimard, 1973.10

「アテナイの民主制とプラトンのコミュニケーション論」江藤文夫・鶴見俊輔・山本明編『講座コミュニケーション1 コミュニケーション思想史』研究社, 1973.11

「教会とアウグスティヌスのコミュニケーション論」江藤文夫・鶴見俊輔・山本明編『講座コミュニケーション1 コミュニケーション思想史』研究社, 1973.11

「H・D・ダンカンのコミュニケーション論」『年報・社会心理学』15, 日本社会心理学会, 1974.10

「解説」『権田保之助著作集2 娯楽業者の群・民衆娯楽論』文和書房, 1974.12 [のちに「娯楽研究の姿勢——権田保之助の民衆娯楽論」と改題]

「価値と制度——聖俗理論をめぐる」浜嶋朗編『社会学講座2 社会学理論』東京大学出版会, 1975.2

The Loss of Meaning in Death, *The Japan Interpreter*, 9-3, Japan Center for International Exchange, 1975.2

「点と線」以後——社会派の位相』『国文学』20-4, 学燈社, 1975.3

- 「日常生活における解釈の問題」仲村祥一編『社会学を学ぶ人のために』世界思想社, 1975.10
- 「社会心理と社会的性格」(共著: 作田啓一), 日本社会学会編集委員会『現代社会学入門 第2版』有斐閣, 1976.11
- 「芸術社会学の形成——H・テースをめぐる」河野健二編『フランス・ブルジョワ社会の成立』岩波書店, 1977.11
- Interactions and Interpretations in Everyday Life, Studies in Symbolic Interaction*, 3, JAI Press, 1980.12
- The World of Games, Studies in the Humanities and Social Sciences*, 29, Faculty of General Education, Osaka University, 1981.2
- 「悪夢の選択——コンラッド『闇の奥』について」『現代社会学』8-2, 講談社, 1981.4
- 「結婚と性」『ジュリスト増刊総合特集 25 人間の性——行動・社会・文化』有斐閣, 1982.1
- 「うそ現象へのアプローチ」仲村祥一・井上俊編『うその社会心理』有斐閣, 1982.6
- 「文化の「日常化」について」『社会学評論』34-2, 日本社会学会, 1983.9
- 「地域の文化」井上俊編『地域文化の社会学』世界思想社, 1984.2
- 「生活世界とドラマ」塩原勉編『社会学の理論Ⅱ』放送大学教育振興会, 1984.8
- 「暴力について」『現代風俗 '84』現代風俗研究会, 1984.10
- A Choice of Nightmares: On Joseph Conrad's Heart of Darkness, Studies in Symbolic Interaction*, 6, JAI Press, 1985.11
- 「コミュニケーションのはたらき」下河内稔編『「脳力」を育てる』大阪書籍, 1986.12
- 「老いのイメージ」伊東光晴・河合隼雄・副田義也・日野原重明編『シリーズ老いの発見 2 老いのパラダイム』岩波書店, 1986.12
- 「日本文化の100年——社会的視点から」宇沢弘文・河合隼雄・藤沢令夫・渡辺慧編『岩波講座・転換期における人間 10 文化とは』岩波書店, 1989.8
- 「スポーツと社会学理論」『体育・スポーツ社会学研究』8, 道和書院, 1989.10
- 「貧乏倶楽部の勉強計画」『現代風俗 '90/貧乏』リプロボート, 1989.11
- 「情報化と生活意識の変化——情報の「多層化」と生活意識の「演劇化」」野村雅一編『現代日本における伝統と変容 8 情報と日本人』ドメス出版, 1992.8
- 「「武道」の発明——嘉納治五郎と講道館柔道を中心に」『ソシオロジ』32-2, 社会学研究会, 1992.10
- 「スポーツ社会学の可能性」『スポーツ社会学研究』1, 日本スポーツ社会学会, 1993.3
- 「自由時間社会とライフスタイル——遊びの視点から」『大阪体育大学スポーツ産業特別講座アニュアル・レポート』大阪体育大学, 1993.3
- 「現代文化のとらえ方——都市・消費・情報」井上俊編『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社, 1993.3
- 「武道のディスクールにおける「自然主義」」濱口恵俊編『日本型モデルとは何か』新曜社, 1993.4
- 「都市——装置とイメージ」大峯顕・原田平作・中岡成文編『地域のロゴス』世界思想社, 1993.6
- 「私の大学教科書論——社会学」『I D E・現代の高等教育』349, 民主教育協会, 1993.10

- 「うその社会的効用」木下富雄・吉田民人編『記号と情報の行動科学』福村出版, 1994.1
- 「「おのづから」の自然体——身体文化論」『現代風俗 '94/アブない人体』リプロポート, 1994.4
- 「生活のなかの遊び」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座・現代社会学 20 仕事と遊びの社会学』岩波書店, 1995.12
- 「遊びと宗教」『コルモス・シリーズ 第41回研究会議報告』現代における宗教の役割研究会, 1995.12
- 「物語としての人生」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座・現代社会学 9 ライフコースの社会学』岩波書店, 1996.3
- 「スポーツとメディア・イベント——「武道」の形成とスポーツの「武道」化」(共著: 西山哲郎), 津金澤聰廣編『近代日本のメディア・イベント』同文館, 1996.7
- 「日本文化の社会学」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座・現代社会学 23 日本文化の社会学』岩波書店, 1996.8
- 「社会学と芸術」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座・現代社会学 8 文学と芸術の社会学』岩波書店, 1996.9
- 「スポーツの近代」『現代風俗学研究』3, 現代風俗研究会東京の会, 1997.3
- 「動機と物語」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編『岩波講座・現代社会学 1 現代社会の社会学』岩波書店, 1997.6
- 「生きがいと死にがい」『コルモス・シリーズ 第43回研究会議報告』現代における宗教の役割研究会, 1997.12
- The Invention of the Martial Art: Kanō Jigorō and Kōdōkan Judo, in Stephen Vlastos, ed., *Mirror of Modernity: Invented Traditions of Modern Japan*, University of California Press, 1998.4
- 「近代日本におけるスポーツと武道」日本スポーツ社会学会編『変容する現代社会とスポーツ』世界思想社, 1998.8
- 「遊びとスポーツの社会学」『教育と医学』46-8, 慶応義塾大学出版会, 1998.8
- Budo: Invented Tradition in the Martial Arts, in Sepp Linhart and Sabine Frühstück, eds., *The Culture of Japan as Seen Through Its Leisure*, State University of New York Press, 1998.9
- 「文化としてのスポーツ」井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社, 1999.10
- 「スポーツの輸出——柔道の場合」青木保・川本三郎・筒井清忠・御厨貴・山折哲雄編『近代日本文化論 7 大衆文化とマスメディア』岩波書店, 1999.11
- 「『シスター・キャリー』と初期シカゴ学派」『哲学研究』572, 京都哲学会, 2001.10

V 翻訳

- M.シェリフ, C.W.シェリフ『準拠集団——青少年の同調と逸脱』(6, 8章), 重松俊明監訳, 黎明書房, 1968.10
- J.B.メーズ『われらみな犯罪者か——犯罪と社会構造』(共訳: 仲村祥一), 雄渾社, 1969.11
- S.リンド『アメリカの非暴力主義——序説』(共訳: 磯部卓三), 鶴見俊輔編『アメリカの革命』筑摩

書房, 1969.11

D.マーチンデール『現代社会学の系譜』(1, 2, 20 章), 訳者代表: 新睦人, 未来社, 1970-71

Y.A.ザモーシュキン「『逃避主義』と『楽しみ倫理』の心理学」, Y.ライツマン「現代のヒーロー」,

P.ホランダール編・江藤則義訳編『アメリカ社会とソビエト社会』第2巻, 鹿島研究所出版会, 1972.8

D.W.ブラス『日本人の生き方——現代における成熟のドラマ』(共訳: 杉野目康子), 岩波書店,

1985.11

R.コリンズ『脱常識の社会学——社会の読み方入門』(共訳: 磯部卓三), 岩波書店, 1992.3

VI 書評

「見田宗介『現代日本の精神構造』」『社会学評論』16-3, 日本社会学会, 1966.3

「Muzafer Sherif and Carolyn Sherif, *Reference Groups: Exploration into Conformity and Deviation of Adolescents*」『ソシオロジ』13-2, 社会学研究会, 1966.12

「ヨハン・ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』」『energy』5-3, エッソ・スタンダード石油広報部, 1968.7

「Roger Caillois, *Les jeux et les hommes*」『energy』5-3, エッソ・スタンダード石油広報部, 1968.7

「ロジェ・カイヨワ『人間と聖なるもの』」『ぶっく・れびゅう』創刊号, 日本書評センター, 1970.4

「近代日本の社会と個人——K. Tsurumi, *Social Change and the Individual*」(共著: 作田啓一), 『思想』561, 岩波書店, 1971.3

「ライト・ミルズ『権力・政治・民衆』——誠実な批判的知性」『神戸新聞』1971.4.20 ほか〔共同通信〕

「フセヴォロド・オブチニコフ『サクラの枝』『サクラと沈黙』——興味深い日本人観」『神戸新聞』1971.5.18 ほか〔共同通信〕

「ウラジミール・ナボコフ『ブニン』——こっけいの中の悲しみ」『神戸新聞』1971.6.8 ほか〔共同通信〕

「〈ベスト・セラー診断〉北山修『戦争を知らない子供たち』『さすらい人の子守歌』——苛立ち人への子守歌」『展望』158, 筑摩書房, 1972.2

「田原聡一郎『青春——あらかじめ失われた世代』——自己に固執する自律的姿勢」『出版ニュース』出版ニュース社, 1972.7

「高橋三郎『強制収容所における「生」』——「精神の死」とひきかえに」『サンデー毎日』2945, 1975.1.26

「橋本峰雄『性の神』——やさしい神を求めて」『神戸新聞』1976.5.3 ほか〔共同通信〕

「レイモンド・ウィリアムズ『キーワード辞典』——言葉への〈意識の刃〉」『本と批評』70, 日本エディタースクール出版部, 1980.8

「作田啓一『ジャン・ジャック・ルソー』」『聖教新聞』1980.12.24

「瓜生忠夫『戦後日本映画小史』——明確な評価基準」『信濃毎日新聞』1981.8.24 ほか〔共同通信〕

「河合隼雄『中空構造日本の深層』——興味深いモデル」『神戸新聞』1982.3.1 ほか〔共同通信〕

「橋本峰雄編『思想読本・法然』——明晰、周到な論考」『新潟日報』1983.3.28 ほか〔共同通信〕

- 「中野収『ナルシスの現在』『青年心理』44, 金子書房, 1984.5
- 「竹内成明『コミュニケーション物語』——庶民の交流を重視」『神戸新聞』1986.7.28 ほか〔共同通信〕
- 「W. シヴェルプシュ『楽園・味覚・理性』——ヨーロッパ「嗜好文化」の変遷を追う」『エコノミスト』66-53, 毎日新聞社, 1988.12.6
- 「高橋勇悦・川崎賢一編『メディア革命と青年』——新しい情報文化の誕生」『青年心理』79, 金子書房, 1990.1
- 「J. H. ブルンヴァン『チョーキング・ドーベルマン』——無告の民の心を宿して流布する都市伝説」『朝日ジャーナル』32-18, 朝日新聞社, 1990.5.11
- 「F. デーヴィス『ノスタルジアの社会学』——懐古感覚と人間社会のかかわり」『産経新聞』1990.7.24
- 「大村英昭『死ねない時代』『書斎の窓』400, 有斐閣, 1990.12
- 「A. ローウェン『ナルシズムという病い』——障害の分析から治療法提唱」『週刊ポスト』23-23, 小学館, 1991.6.14

VII 辞典・事典類

- 「映画社会学」『社会科学大事典 2』鹿島研究所出版会, 1968.6
- 「スポーツ」「ラジオ・テレビ」久野収・鶴見俊輔編『思想の科学事典』劉草書房, 1969.5
- 「現象学的方法」塩原勉・松原治郎・大橋幸編『社会学の基礎知識』有斐閣, 1969.7
- 「風刺」『社会科学大事典 15』鹿島研究所出版会, 1970.8
- 「アイデンティティ」「アウトサイダー」「遊び」「異議申立て」「イド」「エディプス・コンプレックス」「エレクトラ・コンプレックス」「カセクシス」「カタルシス」「過同調」「実存主義」「サディズム」「死の本能」「新フロイト派」「スポーツ社会学」「性革命」「聖と俗」「生の本能」「中間文化」「デカダンス」「ドロップ・アウト」「ヒッピー」「フロイト学派」「ボヘミアニズム」「抑圧」「抑圧的寛容」「カイヨワ」「ホイジンガ」ほか、濱嶋朗・竹内郁郎・石川晃弘編『社会学小辞典』有斐閣, 1977.6/改訂版, 1997.1
- Leisure-time activities, *Kodansha Encyclopedia of Japan*, Vol. 4, Kodansha, 1983/*Japan: An Illustrated Encyclopedia*, Kodansha, 1993.11
- 「性」北川隆吉監修『現代社会学辞典』有信堂, 1984.1
- 「合宿」『平凡社大百科事典 3』平凡社, 1984.11
- 「デート」『平凡社大百科事典 10』平凡社, 1985.3
- 「動機の語彙 (C・W・ミルズ)」「ルサンチマンと道徳 (F・ニーチェ)」作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房, 1986.6
- 「サブカルチャー」『日本大百科全書 10』小学館, 1986.7
- 「社会的性格」『日本大百科全書 11』小学館, 1986.9
- 「他人志向型」『日本大百科全書 14』小学館, 1987.3

- 「伝統志向型」『日本大百科全書 16』小学館, 1987.7
- 「内部志向型」「日常性」『日本大百科全書 17』小学館, 1987.9
- 「性」「道徳」「ニヒリズム」「モダニズム」「居安正」「作田啓一」「仲村祥一」「米田庄太郎」見田宗介・栗原彬・田中義久編『社会学事典』弘文堂, 1988.2
- 「遊び」木田元・丸山圭三郎・栗原彬・野家啓一編『コンサイス 20 世紀思想事典』三省堂, 1989.4／第 2 版, 1997.10
- 「低俗論」石川弘義・津金澤聰廣ほか編『大衆文化事典』弘文堂, 1991.2
- 「ゲーム」「限界芸術」「楽しみ道徳」「地上の神話」「中間文化」「ポピュラー文化」「プロテウスの人間」ほか, 森岡清美・塩原勉・本間康平編集代表『新社会学辞典』有斐閣, 1993.2
- Jeux et Loisirs, Dictionnaire de la civilisation japonaise*, Hazan, 1994.11
- 「社会学とのかかわり」岡本夏木・清水御代明・村井潤一監修『発達心理学辞典』ミネルヴァ書房, 1995.1
- 「社会意識論」『アエラ・ムック 12 社会学がわかる』朝日新聞社, 1996.2
- 「ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』」「伊藤整『近代日本人の発想の諸形式』」「井上俊『死にがいの喪失』」「井上俊『遊びの社会学』」「シェリフ, M. = シェリフ, C. W.『準拠集団』」見田宗介・上野千鶴子・内田隆三・佐藤健二・吉見俊哉・大澤真幸編『社会学文献事典』弘文堂, 1998.2
- 「遊びと文化 (J. ホイジンガ)」作田啓一・木田元・亀山佳明・矢野智司編『人間学命題集』新曜社, 1998.3
- 「芸術社会学」「ソローキン」「大衆文化」「文化統合」「文化の型」廣松渉・子安宣邦・三島憲一ほか編『哲学・思想事典』岩波書店, 1998.3
- 「柔道 judo」加藤秀俊・熊倉功夫編『外国語になった日本語の事典』岩波書店, 1999.7

VII コラム・時評・随筆・対談・その他

- * 主要なもの、現時点で確認可能なものはできるだけ収載するよう努めました、なお遺漏も少なくないと思われます。
 - * 『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』『産経新聞』などは大阪本社版を基準としています。
- 「ヌーヴェル・ヴァーグ昨今」『現代時報』1-1, 現代時報社, 1964.6
- 「映画評『明日に生きる』」『洛北』3-2, 1966.2
- 「竹下君を悼む」『京大柔道』9, 京都大学柔道部, 1967.6
- 「〈70 年代を生きる・人間の条件〉旅行——自由と変身のイメージ」『神戸新聞』1970.4.8
- 「タレントの「罪と罰」——横山やすし事件に思う」『神戸新聞』1970.12.11
- 「性の解放」『看護学生』18-10, メジカルフレンド社, 1970.12
- 「〈ゼロ座標〉管理社会とウーマン・リブ」『神戸新聞』1971.1.8
- 「〈ゼロ座標〉精神的失業時代」『神戸新聞』1971.1.15
- 「〈ゼロ座標〉眠りの力」『神戸新聞』1971.1.22
- 「〈ゼロ座標〉ギャンブル」『神戸新聞』1971.1.29
- 「現代の若者と「あそび」の精神」『読売新聞』1971.6.19

「現代人と「遊び」——合理主義への反逆」『日本経済新聞』1971.7.2

「「低俗」の周辺」『毎日テーブルクチャー・ニュース』11, 毎日テーブルクチャー編集部, 1971.11.25

「〈ゼロ座標〉 文明の思い上がり」『神戸新聞』1971.12.22

「木枯し紋次郎の世界」『朝日新聞』1972.3.18

「日本人と遊び」（対談：多田道太郎）『朝日ジャーナル』5-12, 朝日新聞社, 1972.5

「離脱の文化」『別冊経済評論』9, 日本評論社, 1972.5

「すばらしき人質社会」（鼎談：黒井千次・田原総一郎）『展望』161, 筑摩書房, 1972.5

「〈キュー〉 解釈病うむ文明の利器」『朝日新聞』1972.6.1

「〈キュー〉 人間として生残る道を」『朝日新聞』1972.6.15

「〈キュー〉 犯罪を通して描く心の過疎」『朝日新聞』1972.6.29

「〈キュー〉 裸族の「誇り」 基盤はどこに」『朝日新聞』1972.7.13

「〈キュー〉 翻案文化にも創造の可能性」『朝日新聞』1972.7.27

「〈キュー〉 歴史のナゾとく面白さ」『朝日新聞』1972.8.10

「〈キュー〉 沖縄報道は持続に意味」『朝日新聞』1972.8.24

「『怠ける権利』の意味」『四国新聞』1972.9.19 ほか [共同通信]

「〈キュー〉 脱ドラマの可能性を探れ」『朝日新聞』1972.9.21

「〈キュー〉 ヤング志向とテレビの限界」『朝日新聞』1972.10.5

「〈キュー〉 思考力なくす言葉の画一化」『朝日新聞』1972.10.19

「〈キュー〉 同情でない共感の空気」『朝日新聞』1972.11.1

「〈キュー〉 「部長刑事」の持続力に注目」『朝日新聞』1972.11.22

「フェア・プレイについて」『雪』24-11, 神戸市防火協会連絡協議会, 1972.11

「電車の目」『神戸っ子』139, 1972.11

「麻雀の歴史と流行」『読売新聞』1972.11.25

「〈キュー〉 よくも悪くも日本的脱世間」『朝日新聞』1972.11.29

「〈キュー〉 力量不足の「不選」の企画」『朝日新聞』1972.12.13

「〈動詞人間学〉 なる——他者に共感の能力」『神戸新聞』1973.2.5 ほか [共同通信]

「〈動詞人間学〉 くだく——弱い者の訴え」『神戸新聞』1973.3.19 ほか [共同通信]

「〈キュー〉 心打つ障害児の成長の苦闘」『朝日新聞』1973.4.7

「〈キュー〉 さえない「男」対「女」の論戦」『朝日新聞』1973.4.21

「〈キュー〉 充実してきた幼児向け番組」『朝日新聞』1973.5.5

「大衆文化と教養主義——「宝塚歌劇」に寄せて」『朝日新聞』1973.5.9

「〈動詞人間学〉 めぐる——秩序ある変転」『神戸新聞』1973.5.14 ほか [共同通信]

「〈キュー〉 「俗」の支配に抵抗する力」『朝日新聞』1973.5.19

「〈キュー〉 面白味を消すむだなセリフ」『朝日新聞』1973.6.2

「〈キュー〉 技術だけでは復興できない」『朝日新聞』1973.6.16

「〈キュー〉 意味のない大家族への郷愁」『朝日新聞』1973.6.30

「〈標的〉 「自分」と「他分」」『朝日新聞』1973.7.5

「〈標的〉 投機社会のゆがみ」『朝日新聞』1973.7.11

「〈標的〉 二人の若手記者」『朝日新聞』1973.7.18

「〈標的〉 脱領域の旅」『朝日新聞』1973.7.25

「〈動詞人間学〉 はずむ——生命の躍動を象徴」『神戸新聞』1973.7.25 ほか〔共同通信〕

「〈滅亡〉からの視点」(対談：橋本峰雄)『現代の眼』14-8, 現代評論社, 1973.8

「〈標的〉 ドラマとしての宗教」『朝日新聞』1973.8.1

「〈標的〉 うろつく人」『朝日新聞』1973.8.7

「〈標的〉 女優の涙」『朝日新聞』1973.8.14

「〈動詞人間学〉 おりる——ゲームと人生の差」『山陰中央新報』1973.8.20 ほか〔共同通信〕

「〈標的〉 レトリックの機能」『朝日新聞』1973.8.22

「〈標的〉 遊民としての学生」『朝日新聞』1973.8.29

「〈標的〉 政治運動と身体運動」『朝日新聞』1973.9.5

「〈標的〉 空きかんの捨て方」『朝日新聞』1973.9.12

「〈標的〉 箸の文化」『朝日新聞』1973.9.19

「〈標的〉 子どもの恋愛文学」『朝日新聞』1973.9.26

「〈動詞人間学〉 のる——自意識からの解放」『新潟日報』1973.9.26 ほか〔共同通信〕

「日本人の「ゆとり」意識」『看護学生』21-6, メジカルフレンド社, 1973.9

「〈標的〉 一夫多妻」『朝日新聞』1973.10.3

「〈動詞人間学〉 おどける——背後に隠された悲しみ」『高知新聞』1973.10.13 ほか〔共同通信〕

「〈日常の神話学〉 構造——科学信仰ひそむ」『サンケイ新聞』1973.10.15

「〈標的〉 日曜学校」『朝日新聞』1973.10.17

「〈標的〉 企業の責任」『朝日新聞』1973.10.24

「〈標的〉 心さわぐ気分」『朝日新聞』1973.10.30

「〈標的〉 安易な翻訳出版」『朝日新聞』1973.11.10

「〈標的〉 上からの「自治」」『朝日新聞』1973.11.14

「〈標的〉 信頼の体系」『朝日新聞』1973.11.21

「信用の系譜——遠のく理想」『東と西』創刊号, メリルリンチ証券東京支店, 1973.11

「〈動詞人間学〉 さばく——理非曲直を分ける」『高知新聞』1973.11.27 ほか〔共同通信〕

「〈標的〉 戯作の精神」『朝日新聞』1973.11.28

「冬を生きる」(鼎談：大山昭子・森喜久雄)『朝日新聞』1973.11.29

「〈日常の神話学〉 信用——その名の「人質」時代」『サンケイ新聞』1973.12.3

「〈標的〉 ある読書」『朝日新聞』1973.12.5

「〈標的〉 死の看護」『朝日新聞』1973.12.12

- 「〈標的〉おもしろい闘争」『朝日新聞』1973.12.19
- 「〈標的〉ぬけがら家庭」『朝日新聞』1973.12.26
- 「〈動詞人間学〉かれる——衰えのなかの美」『高知新聞』1973.12.27 ほか〔共同通信〕
- 「謝罪の文化」『法学セミナー増刊・セミナー法学全集 6』日本評論社, 1974.2
- 「現代社会とスポーツ」(座談会: 大島謙吉・青木宗也・福岡孝行)『ユニヴェルシタス』3-1, 法政大学出版会, 1974.3
- 「解説」『松本清張全集 23 喪失の儀礼・強き蟻』文芸春秋, 1974.4
- 「友情——甘えを排し、距離感覚を」『爽』74, コスモ・ピーアール, 1974.4
- 「現代の青年を斬る」(座談会: 扇谷正造・佐藤カツコ・青井和夫)『コミュニティ』39, 地域社会研究所, 1974.6
- 「〈動詞人間学〉そだてる——裏切られがちな夢」『高知新聞』1974.6.4 ほか〔共同通信〕
- 「〈動詞人間学〉すむ——秩序体系に身を置く」『京都新聞』1974.6.7 ほか〔共同通信〕
- 「オカルト・ブーム考」『展望』187, 筑摩書房, 1974.7
- 「読書に求める大衆の社会心理——漱石からオカルトまで」(座談会: 山本明・石子順造・鶴見俊輔)『コミュニケーション』10, 日本電信電話公社, 1974.7
- 「あそびは生きがいたり得るか」『レクリエーション』166, 日本レクリエーション協会, 1974.8
- 「〈動詞人間学〉わすれる——過去を許す心」『高知新聞』1974.8.11 ほか〔共同通信〕
- 「〈視聴覚情報〉オカルティズムとヒロイズム」『放送朝日』247, 朝日放送, 1974.12
- 「〈視聴覚情報〉ジョン・フォードの西部劇」『放送朝日』248, 朝日放送, 1975.1
- 「越境性のメディア」(鼎談: 井上宏・小関三平)『放送朝日』248, 朝日放送, 1975.1
- 「〈日常の社会学〉「構造」について」『現代思想』3-2, 青土社, 1975.2
- 「〈日常の社会学〉「動機」について」『現代思想』3-3, 青土社, 1975.3
- 「テレビにみる愛のかたち——ニュー・メロドラマについて」『るーぶ』9, よみうりテレビ友の会, 1975.4
- 「青年と社会」『清交』31-5, 清交社, 1975.5
- 「〈視聴覚情報〉「生」への処罰としての死」『放送朝日』252, 朝日放送, 1975.5
- 「〈視聴覚情報〉滑稽のなかの悲しみ」『放送朝日』253, 朝日放送, 1975.6
- 「〈視聴覚情報〉ゲームと人生」『放送朝日』254, 朝日放送, 1975.7
- 「日本の大衆文化」『日本を考える』[第7回大阪大学開放講座テキスト] 大阪大学, 1975.9
- 「〈暮らし考現学〉若者」上・中・下(鼎談: 多田道太郎・橋本峰雄)『京都新聞』1975.10.17 より3回連載ほか〔共同通信〕
- 「「解説」機構としてのテレビ」『放送朝日』257, 朝日放送, 1975.10
- 「よろめきドラマ再考」『放送朝日』258, 朝日放送, 1975.11
- 「〈生活学ことはじめ〉年齢——年次秩序として威力」『朝日新聞』1975.11.1
- 「〈生活学ことはじめ〉裏話——組織の内幕をえぐる」『朝日新聞』1975.11.22

「〈生活学ことはじめ〉 ワッペン——価値の逆転示す風俗」『朝日新聞』1975.12.20

「刑事コロンボ」『放送朝日』259, 朝日放送, 1975.12

「〈キュー〉 つっこみ足りぬ特派員報告」『朝日新聞』1976.2.10

「〈キュー〉 背景生かしきれぬ『大都会』」『朝日新聞』1976.2.17

「〈キュー〉 世相を映す刑事もののブーム」『朝日新聞』1976.2.24

「劇画世代の知識源」『経済セミナー』254, 日本評論社, 1976.3

「〈キュー〉 時代劇の将来占う「自由」さ」『朝日新聞』1976.3.3

「〈キュー〉 身近な広がりみせた科学観」『朝日新聞』1976.3.8

「〈キュー〉 感銘深かった老瞽女の言葉」『朝日新聞』1976.3.16

「コピーされた歴史」『読売新聞』1976.3.23

「〈キュー〉 原作ふやけた『新車の中の女』」『朝日新聞』1976.3.30

「〈キュー〉 紹介にとどまった米の宗教」『朝日新聞』1976.4.6

「〈キュー〉 英語教育に視覚主義の弱点」『朝日新聞』1976.4.13

「〈キュー〉 「CM文化」の功罪考える時」『朝日新聞』1976.4.27

「偽装の時代——刑事もののブームの背景」『東京新聞』1976.5.10

「うその学校」上・下（座談会：祖父江孝男・濱口恵俊・磯部卓三）『毎日新聞』1976.6.5,6,7.

「〈ニューファミリー分析ノート〉 新しい家族関係」『新潟日報』1977.4.20 ほか [みや通信]

「〈ニューファミリー分析ノート〉 その結婚観」『新潟日報』1977.4.27 ほか [みや通信]

「あそびの論理」（対談：森毅）『現代数学』10-8, 現代数学社, 1977.8

「ルールのつくり変え」『こどもと体育』30, 光文書院, 1979.9

「ドーム革命」『教養の広場』4, 京都新聞社, 1979.11

「人生の選び直し」『Voice』25, PHP 研究所, 1980.1

「〈遊びの風俗〉 留学遊び」『北海道新聞』1980.2.6 ほか [みや通信]

「〈遊びの風俗〉 同伴喫茶」『北海道新聞』1980.3.19 ほか [みや通信]

「〈遊びの風俗〉 紫煙の遊び」『北海道新聞』1980.4.26 ほか [みや通信]

「〈遊びの風俗〉 英会話」『北海道新聞』1980.7.5 ほか [みや通信]

「〈遊びの風俗〉 Tシャツ」『熊本日日新聞』1980.7.14 ほか [みや通信]

「ロンドンからの小包」『本』5-8, 講談社, 1980.8

「〈遊びの風俗〉 現代OLの性意識」『北海道新聞』1980.9.20 ほか [みや通信]

「〈遊びの風俗〉 スポーツマンはフェアか？」『北海道新聞』1980.10.25 ほか [みや通信]

「〈キュー〉 犯罪の分析に努力みえるが……」『朝日新聞』1980.11.27

「〈遊びの風俗〉 パーティ」『北海道新聞』1980.12.6 ほか [みや通信]

「〈キュー〉 「資格社会」の生み出すもの」『朝日新聞』1980.12.12

「〈遊びの風俗〉 アイ・アム・ストレート」『北海道新聞』1980.12.20 ほか [みや通信]

「ある国勢調査員」『サイコロジー』2-1, サイエンス社, 1981.1

「宗教と道徳」『同朋』32-3, 真宗大谷派宗務所, 1981.3

「現代社会と生きがい」『高校通信』15-4, 教育出版, 1981.4

「〈キュー〉水問題の広がり的確に指摘」『朝日新聞』1981.7.16

「通り魔報道の周辺」『秋田さきがけ新聞』1981.7.24 ほか〔共同通信〕

「〈風見鶏〉親切な記事」『サンケイ新聞』1981.7.27

「〈風見鶏〉女性と犯罪」『サンケイ新聞』1981.8.10

「〈風見鶏〉好奇心と冒険心」『サンケイ新聞』1981.8.17

「〈風見鶏〉性の少数者」『サンケイ新聞』1981.8.24

「〈風見鶏〉言葉がもつ重み」『サンケイ新聞』1981.8.31

「〈風見鶏〉地方自治ということ」『サンケイ新聞』1981.9.7

「〈風見鶏〉大衆文学と国際理解」『サンケイ新聞』1981.9.14

「〈風見鶏〉貧弱な日本のブーム」『サンケイ新聞』1981.9.21

「〈風見鶏〉古風な犯罪」『サンケイ新聞』1981.9.28

「〈風見鶏〉予言のメカニズム」『サンケイ新聞』1981.10.5

「〈風見鶏〉縦のドラマへの期待」『サンケイ新聞』1981.10.12

「〈風見鶏〉能率的レジャーとは？」『サンケイ新聞』1981.10.19

「〈風見鶏〉情は人の為ならず」『サンケイ新聞』1981.10.26

「〈遊びにつぼん〉海外旅行」『レクリエーション』255, 日本レクリエーション協会, 1982.1

「〈遊びにつぼん〉テニス・ブーム」『レクリエーション』259, 日本レクリエーション協会, 1982.5

「“一家団欒”の場としてのクルマ考」(鼎談: 黒井千次・草津攻)『自動車とその世界』189, トヨタ自動車広報部, 1982.6

「おだやかな冷笑主義」『京都新聞』1982.10.12

「大学大衆化の帰結」『新潟日報』1982.12.28 ほか〔みや通信〕

「〈寄り合い談義〉バック時代」(鼎談: 宮本豊子・奥野卓司)『朝日新聞』1983.4.23

「〈現代のことば〉ストレンジャーの世界」『京都新聞』1983.8.12

「〈現代のことば〉日本賛美の風潮」『京都新聞』1983.9.30

「コミュニケーションと人間」『情報とコミュニケーション』〔第15回大阪大学開放講座テキスト〕大阪大学, 1983.9

「情報で動く現代社会」『大阪大学新聞』1983.10.20

「世界コミュニケーション年を振り返って——「伝えあう」ことの意味」『サンケイ新聞』1983.12.26

「〈現代のことば〉言論と暴力」『京都新聞』1984.1.18

「現代社会と若者たち」(座談会: 笠原嘉・軒上泊・麻生誠)『青年心理』43, 金子書房, 1984.3

「〈現代のことば〉コンピューター芸術」『京都新聞』1984.5.1

「〈現代のことば〉デートの歴史」『京都新聞』1984.6.18

「大学は自由の使い方を学ぶ場だ」(対談: 楠田枝里子)『朝日新聞』1984.10.30

- 「遊びとは何か」(鼎談：木村敏・別役実)『季刊マンパワー・遊びの巻』6, マンパワージャパン, 1985.3
- 「青年期における聖と俗」(シンポジウム：岩田慶治・米山俊直・河合隼雄・畠中達)『京都大学学生懇話室紀要』14, 1985.3
- 「〈テレビ時評〉紋切り型ドラマ『季節はずれのサンタクロース』」『スポーツニッポン』1985.3.11
- 「〈テレビ時評〉三人の「文化遺産」——西行・親鸞・良寛」『スポーツニッポン』1985.3.25
- 「〈テレビ時評〉「いじめ」の構図『ドキュメント'85』」『スポーツニッポン』1985.4.8
- 「〈テレビ時評〉深夜の良識派番組『エンドレスナイト』」『スポーツニッポン』1985.4.22
- 「〈テレビ時評〉より重要な解説者『全日本柔道選手権』」『スポーツニッポン』1985.5.6
- 「〈テレビ時評〉久々に重厚な手応え『日本人になれなかった男』」『スポーツニッポン』1985.5.20
- 「〈テレビ時評〉ヒーロー像の変化——土方歳三はかわいい！」『スポーツニッポン』1985.6.3
- 「〈テレビ時評〉本当の「ウラの裏」に迫る番組を」『スポーツニッポン』1985.6.17
- 「〈われわれはどこへ?〉しゃべる——話し方教室」『サンケイ新聞』1985.6.27
- 「〈われわれはどこへ?〉たべる——食文化・背後に大きな矛盾」『サンケイ新聞』1985.8.22
- 「〈われわれはどこへ?〉あるく——都市生活・迷路になった地下街」『サンケイ新聞』1985.10.17
- 「情報の「多層化」について」『社会・経済システム』3, 社会・経済システム学会, 1985.11
- 「新しい社会と人間」『ヘアストリーム』[CACF 日本 20 周年記念誌] 主婦の友社, 1985.11
- 「〈われわれはどこへ?〉わらう——複雑な現象」『サンケイ新聞』1985.12.26
- 「娯楽を見る目——娯楽研究の視点と権田保之助の位置」(座談会：池井望・石川弘義・権田速雄・津金澤聰廣・鶴見俊輔・仲村祥一)『権田保之助研究』4, 日本人と娯楽研究会, 1986.2
- 「〈われわれはどこへ?〉みる——内面と外面・視覚環境拡大の中で」『サンケイ新聞』1986.3.13
- 「〈われわれはどこへ?〉とぶ——浮遊型文化」『サンケイ新聞』1986.5.8
- 「〈われわれはどこへ?〉のる——乗り遅れ」『サンケイ新聞』1986.7.10
- 「〈現代の言葉〉遊びと追悼」『京都新聞』1986.7.31
- 「遊びのすすめ——距離感覚」『高校教育展望』11-6, 小学館, 1986.8
- 「オーストラリアの民衆文化」『南から新しい光が……』[第 18 回大阪大学開放講座テキスト] 大阪大学, 1986.8
- 「〈われわれはどこへ?〉うたう——表出と交流」『サンケイ新聞』1986.8.7
- 「〈われわれはどこへ?〉まける——「高貴なる敗北」の背景」『サンケイ新聞』1986.9.4
- 「〈現代の言葉〉老化」『京都新聞』1986.9.19
- 「英米の風俗関連文献——この 10 年」(対談：稲増龍夫)『現代風俗'86』現代風俗研究会, 1986.10
- 「〈われわれはどこへ?〉のむ——お茶、コーヒー、そして……」『サンケイ新聞』1986.10.9
- 「〈われわれはどこへ?〉つくる——仮面の役割」『サンケイ新聞』1986.11.6
- 「〈現代の言葉〉ウッドワードとバーンスタイン」『京都新聞』1986.12.2
- 「〈われわれはどこへ?〉おす——複雑化する「押しボタン時代」」『サンケイ新聞』1986.12.4
- 「〈われわれはどこへ?〉ひらく——一つの終わりは次の始まり」『サンケイ新聞』1986.12.25

- 「〈現代の言葉〉 奇妙なうそ」『京都新聞』1987.1.10
- 「〈現代の言葉〉 レジャー研究学部」『京都新聞』1987.5.2
- 「〈現代の言葉〉 ノスタルジーの逆説」『京都新聞』1987.6.24
- 「樹木の影は冴えてくるか——風俗研究の先端とゆくえ」（対談：多田道太郎）『現代風俗 '87/ノスタルジック・タウン』リポート、1987.12
- 「脚光浴びるレジャー学」『季刊オセアニア』13、関西オセアニア協会、1988.4
- 「〈紙面批評〉 新聞の個性は社会面に表れる」『産経新聞』1990.5.20
- 「〈紙面批評〉 ゴシップには味つけがほしい」『産経新聞』1990.6.17
- 「〈紙面批評〉 投書欄は新聞の水準示す指標」『産経新聞』1990.7.15
- 「〈紙面批評〉 国際報道に社会面の感覚を」『産経新聞』1990.8.12
- 「〈紙面批評〉 裏話的な情報も積極的に報道を」『産経新聞』1990.9.16
- 「〈紙面批評〉 新聞の命運を左右する紙面のノリ」『産経新聞』1990.10.14
- 「〈紙面批評〉 「発掘型」のテレビ紹介欄を」『産経新聞』1990.11.18
- 「〈紙面批評〉 双方向的なメディアを目指せ」『産経新聞』1990.12.23
- 「桑原先生の思い出」『いつも会いたい桑原先生』現代風俗研究会、1990.12
- 「ノスタルジー？」『事務と経営』544、日本経営協会、1991.9
- 「「発明」される伝統」『京都新聞』1992.7.14
- 「コメント——「遊び半分」に生きることの練習」中島義明・井上俊・友田泰正編『人間科学への招待』有斐閣、1992.5
- 「心騒ぐ街」『読売新聞』1992.10.29
- 「都市——ひらかれたテキスト」『世界劇場』特別号、阪急東宝グループちゃやまち広報委員会、1992.12
- 「書評に込めて」『ソシオロジ』38-1、社会学研究会、1993.5
- 「クイズの知——断片化から再構築へ」『is』60、ボーラ文化研究所、1993.6
- 「二十年前的こと」『以華為信——「真理」三十周年記念』井橋初子私家版、1994.3
- 「ゲンブーケンにおける多田道太郎氏」『多田道太郎著作集5 現代風俗ノート』月報、筑摩書房、1994.6
- 「都市の個性を大切に」『月刊 CULSE』161、民主音楽協会、1994.8
- 「脱常識の社会学」『甦る周縁のいのち』川合仁先生退職記念フォーラム実行委員会、1994.12
- 「〈現代の言葉〉 ポストモダンの麻雀」『京都新聞』1995.8.3
- 「〈現代の言葉〉 無法松の運動会」『京都新聞』1995.9.20
- 「〈現代の言葉〉 脱企業？脱都市？」『京都新聞』1995.11.9
- 「〈現代の言葉〉 届かない本」『京都新聞』1995.12.28
- 「多様化する社会学」『聖教新聞』1996.2.3
- 「〈忘れがたき人〉 三船久蔵」『アエラ・ムック 12 社会学がわかる』朝日新聞社、1996.2
- 「〈現代の言葉〉 卒業論文」『京都新聞』1996.2.22

- 「〈現代の言葉〉 ポケベル体験」『京都新聞』1996.4.10
- 「〈現代の言葉〉 タイコンデログ」『京都新聞』1996.6.17
- 「〈現代の言葉〉 キライワード辞典」『京都新聞』1996.7.15
- 「〈現代の言葉〉 せわだ文学」『京都新聞』1996.9.7
- 「〈現代の言葉〉 幻の配役」『京都新聞』1996.10.21
- 「「つどい」にみる日本文化」（対談：中西進）『季刊・まち&すまい』54, 住宅・都市整備公団, 1996.11
- 「〈現代の言葉〉 ケントとサラの危機管理」『京都新聞』1996.12.11
- 「〈現代の言葉〉 イモづる式」『京都新聞』1997.3.21
- 「〈現代の言葉〉 きのような昔」『京都新聞』1997.5.19
- 「〈現代の言葉〉 都市小説」『京都新聞』1997.7.15
- 「「怒り心頭に発する」か？」（鼎談：福島章・道浦母都子）『コミュニケーション』68, NTT, 1997.8
- 「〈現代の言葉〉 カジノの社会学」『京都新聞』1997.9.11
- 「〈現代の言葉〉 古書探偵」『京都新聞』1997.11.7
- 「〈現代の言葉〉 自分史とカラオケ」『京都新聞』1998.1.16
- 「〈現代の言葉〉 明治のスポーツ報道」『京都新聞』1998.3.13
- 「〈現代の言葉〉 エヴェレストの悲劇」『京都新聞』1998.5.11
- 「〈潮音風音〉 ワールドカップ」『読売新聞』1998.6.10
- 「〈潮音風音〉 メール会議」『読売新聞』1998.6.11
- 「〈潮音風音〉 車中の「社会」」『読売新聞』1998.6.12
- 「〈潮音風音〉 地下歩行者」『読売新聞』1998.6.16
- 「〈潮音風音〉 素人参加システム」『読売新聞』1998.6.17
- 「都市社会と多様性」（対談：日高敏隆）『季刊・まち&すまい』62, 住宅・都市整備公団, 1998.9
- 「笑う能力」『鈴木孝夫著作集 8 人にはどれだけの物が必要か』月報, 岩波書店, 2000.5
- 「消えない残像」『北陵柔道』北陵柔道会, 2000.5
- 「以文会昨今」『以文』43, 京大以文会, 2000.10
- 「遊び論への招待／社会学からの視点」『月刊レクリエーション』516, 日本レクリエーション協会, 2002.2
- 「書評に答えて」『ソシオロジ』46-3, 社会学研究会, 2002.2
- 「スポーツ社会学会の10年」（座談会：池井望・佐伯年詩雄・森川貞夫・伊藤公雄・菊幸一）『スポーツ社会学研究』10, 日本スポーツ社会学会, 2002.3